

図書館通信 — 5 —

1970.9

真夏の夜の夢

松岡寛爾

某日、久しぶりに中央図書館を訪れた。1970年頃とはちがい、今では、必要な資料・文献を申しこんでさえおけば、全国の大学図書館をあさって整理されたファイルが、3日以内に手許へとどくようになったから、図書館へ出むく機会がすくないのである。

図書館では、中部地方大学図書館センターの超大型電算機に直結した数種の端末機器が、フルに活動している。こちらでは、4日前に依頼しておいたデータ、つまり、1825年から1975年までの、イギリスの鉄鉄の年平均価格・年間生産量・年間生産額が、用紙の上に打ちだされている。今日は、この資料を催促するために、図書館へ来たのだった。あちらでは、写真・地図・図版入りの地学の論文が、ファクシミリののように、えがきだされている。

あの機械は、静大教育学部の紀要の論文を、中部地方センター経由、愛知学芸大に宛てて送っている。この機械は、1970年当時の田子の浦・富士市の公害資料を、写真・地図入りで、中部地方センター・関東地方センター経由、東京都立大へとどけている。そちらの機械は、昨日までに中部地方センターに受入れられた和・洋学術雑誌のうち、数学に関する論文名・執筆者名・雑誌名・巻・号・発行年月・頁を打ちだし、理学部数学科宛のコンテンツ・サービス資料を作成している。また、昨日許可された特許の情報を、吐きだしている機械もある。

閲覧室の隣りにあるレファレンス・ルームでは、学問分野別の専門職員が数名いて、学生たちの読書相談・資料相談に応じている。彼らは、レファレンス専門職の厳しい訓練と試験を受けて資格を取得しており、また、手許の機器によって、全国の最新情報を即座につかんで提供できるのであって、教官の参考の用にも十分に耐えるのである。複写室も活発に利用され、数名の複写係は、常時、学生からの注文に追われている。年輩の館員の話では、レファレンス・サービスとコピー・サービスは、1970年度にほそぼそながら開始されたが、当時はまだ、利用者も稀だったと言う。このほか、地域資料室、防音のいきとどいた討議室、スライド・ビデオ・映画の利用できる小規模な視聴覚室、気候の良い季節にベランダを利用してひらかれる屋外閲覧スペースなども、よく使われている。

各地方にひとつずつ設けられた大学図書館センターは、研究用の図書・雑誌のほとんどを、マイクロ化して保存するのであって、各地方の研究用情報センター兼保存図書館の性格を持つ。各大学の図書館は、参考図書・県内発行資料・学生用図書などを保存するにすぎず、大学における研究用情報センター兼学生用図書館となる。

……と思いをはせて、ふと現実に戻る。技術的には、遠からず可能であろうが、予算・定員・専門職員の待遇等を考えると、しょせん「真夏の夜の夢」にすぎないのであろう。

(人文学部 理論経済学 助教授)

〈図書館紹介〉

情報センターを目指す県立中央図書館

7月初旬、鈴木(画)、下村、大埜、佐藤の4名で静岡市谷田に新築された静岡県立中央図書館を見学しました。紹介をかねてその時の印象を利用面からまとめてみました。

この図書館は、博物館、音楽堂からなる「文化センター」の中核であると共に、「情報センター」「資料図書館」の機能を追求する新しいタイプの公共図書館です。

情報センターとして、先ず第一に、従来の図書館的な貸出機能から、調査研究への援助にウェイトを移したといえます。閲覧室資料の部門制・調査研究上の疑問や質問に応えるレファレンスが、その柱です。前者の場合、急激な経済成長、技術革新にそなえた産業技術資料、県政、地方自治に関する行政資料、県内各郡市町村の史誌を中心とした郷土資料、教育の時代を反映した教育資料、参考図書、一般資料の別に、約10万冊が閲覧室にでています。特に、大阪府立図書館同様、産業資料部門を重視した工業所有権関係資料(特許・実用新案等)、科学技術情報関係資料(Chemical abstract. 科学技術文献速報等)、公共機関の報告、論文、企業の技術報告などの収集は、従来の公共図書館のイメージから脱却しています。又、郷土資料も貴重なものが閲覧室にでており、利用者の便宜を計っているものの、専門研究者は、図書館側の資料に対する価値観やその保管方法に一樣に疑問と驚きを示しています。私達もこの図書館に於ける意外な貴重資料の取扱い方に危惧の念を抱かずにはいられませんでした。

その他、書庫には、特別蒐書として、久能文庫幕末関係資料の多い葵文庫、現代詩ライブラリーがあり、視聴覚資料も利用できます。

後者のレファレンスについては、図書館の性格の変化に伴い、二次資料の充実と共に、かなり重点を置いている様に思われます。参考図書は、各部門毎にあります。全体にわたるもの(総記)は一ヶ所にまとめられ、中にはソビエト大百科、エスパーサの様なものもあります。

資料に関しては特に、本学図書館本館には乏しい工学・産業部門が充実していくと予測されるので、本学図書館との相互貸借が普及すれば、有機

的利用が可能になることでしょう。

施設としては、利用のため、ゆったりした閲覧室、休憩用のブラウジングルームが完備しています。又、文化センター的性格を担うレクチャールーム、展示室、会議室、視聴覚モデルルームなどの施設もあり、今後の総合文化センターの完成がまたれます。

この様に、総じて、利用者に細い配慮がなされていますが、交通の便が悪く、昼食は用意していかねばならないなど、不便なこともあります。資料も、従来市立図書館の役割も兼ねていたこととも絡んで、所謂、専門図書・洋書が少いこと、二次資料は最近のものが主で、適切的な調査に弱いように見受けられます。今後の資料充実の方針によって、しかし、これら新図書館の設立に伴う点は遠からず克服されることでしょう。しかし、資料の部門別構成ということは、2部門以上をわたる研究の際に、レファレンスの利用が中心になることを意味しており、利用者も、従来の図書館利用法を考え直さねばならないことでしょう。

又、大学側からみれば、急速に情報センターとして展開していくことに、賛意を表しつつも、図書館活動の一般的普及の役割を担うことからいえば、公共図書館としての有機的な機能と組織については、今後はかられるでしょうが、現在必ずしもうまくいっていない様に見受けられました。

一般的印象を言うならば、この図書館は、イメージ・チェンジの途上にあるといえましょう。

(3ページよりつづく)

歓び・精神の至福がまたとあろうか?」とエンは述懐している。初版に接したのは22歳、以後『鹿鳴集』は気力の衰えた折つねに私の傾ける座右室でもある。「この種の書物は同時代のものではなくてはならない。同じ空のもとで、ある者が他の者に訴える。その鏡のなかに人はわれとわが姿を垣間見るのだから」

人はあやしむであろうか — この私が歌集を推すことに? 伏せておいたが、しかし、道人はもと英文学者であった。学は和漢洋に通じ、決してバタ臭くも軽薄でもないその道敬愛の先達は少なくとも3人 — すなわち、①に漱石、②に土居光知、③には會津八朗。

(教養部 英語 教授)

私のすすめたい本

『鹿鳴集』頌

太田芳三郎

美術史家・書家・歌人 — 會津八一は1881（明治31）年8月1日新潟に生まれた。後に八朔郎と称したのはこの故である。1902年上京、早稲田に学び坪内逍遙に師事し、ついで母校に教え、1934年奈良古美術とりわけ「法隆寺法起寺法輪寺建立年代の研究」によって学位をえた。戦災で家を焼かれ書画を失なって新潟に帰り、1951年推されて「名誉市民、自ら愛した重んじられたその郷里で1956（昭和31）年夜半に長逝した。生涯独身、享年76歳。生前の雅号そのままに「渾斎秋草（萩の花を愛した）道人」が戒名でもあった。

履歴の輪郭だけをなぞると、人の一生は所詮はかない。けれども、ある種の後進にとって、内実、會津八一は近代稀にみる個性ゆたかな逸材・叛骨の一匹狼ではなかったか？

彼はまず早熟の異能児 — 旧制中学在学ハイ・ティーン折すでに地方新聞俳壇の選者またリーダーであった。子規や一茶を尚び

瘦蛙負けるな一茶是にあり 一茶

次にひかへし會津八朔 八朔郎

短歌に転じて、越後の謙信に寄せた

たちとればながをかげとらふでとれば

きみとやいはむわれといやいはむ

には、まだ自負をこめた稚気がみなぎっている。

しかるに、その句や歌を試する筆蹟のつたなさをたしなめられるや、猛然と書に没入して新境地を拓き、他方良寛と万葉集に触発され、大和地方に遊ぶに及んで、にわかには気宇行動は広大となる。壮年期には体重100キロに迫る巨漢・「鬼瓦のような」いかつい風貌・談論は大音声に風発し、墨痕鮮かにしたためた書簡なんと今に残る1万5千通・ことに眼中に先師なく（たわむれにヤマベクンまたはカキノモトクンと呼んだという）身辺に結社を拒んだ歌風には、まこと自主独立・ユニークな趣きがある。

高名な学規四箇条に「一、深くこの生を愛すべし／一、省みて、己を知るべし／一、学菫を以て性を養ふべし／一、日々新面目あるべし」とある

が、その実践の成果は『會津八一全集』に明らかながら、他事は措き、ここでは例証に『鹿鳴集』（初版・昭和15年）の歌を掲げたいと思う。

所収の作歌332首、実にこれ道人28歳から60歳までの期間に削りに削り磨きに磨いて「詠みすえた」珠玉・わけても奈良の自然や堂塔仏像に取材する「南京（なんきょう）新唱」はただただ玲瓏の絶唱というほかに形容を知らない。

はるきぬといまかもろびとゆきかへり

ほとけのにはにはなさくらしも

はつなつのかぜとなりぬとみほとけは

をゆびのうれにほのしらすらし

いかるがのさとのをとめはよすから

きぬはたおれりあきちかみかも

あらしふくふるきみやこのなかぞらの

いりひのくもにもゆるたふかな

昭和30年琴の名人・宮城道雄が（生前最後）作曲

した、これは「秋草道人奈良四季歌」である。また

くわんおんのしろきひたひにようらくの

かげうごかしてかぜわたるみゆ

あめつちにわれひとりいてたつごとき

このさびしさをきみはほほえむ

前者は法輪寺の十一面観音・後者は夢殿の救世観音 — 下敷にしたであろう万葉の相聞歌と近代化した、いかにも優婉な調べある。「寂しく強く美しい」道人独特の格調について、これ以上のことは、後の人の翻読と鑑賞にまつことにしたい。

年来慣用し来った上代の諸法や「歌は唱うべき」を主張した故の総平仮名の表記をおもんばかったためであろうか、著者は後に解説・如上の作品にまさるとも劣らぬ出来栄の『渾斎隨筆』（昭和17年）を世に送り、さらに戦後70歳を越える高血圧のさなか「床上に強起して稿を進める」こと2カ年、おのが造詣を傾けて最後の著作『自註鹿鳴集』（昭和28年・歌は371首）をようやく完成している。袖珍本ながら、これは才幹と学殖と見識とがことごとく凝ってここに集まる會津八一畢生の「詩と真実」にほかならない。一卷の小歌集にしてこれほどまでに心血をそそいだ例が東西古今他に見出されるであろうか？

「忽ちにして私たちを開眼させ、両親や恋人や切実な体験と並んで、ただちにおのれの生活深く参入する、そんな本が世の中にはある。青春の日にそれにめぐりあうこと — これにまさる知的な（2ページにつづく）

昭和44年度図書館利用統計表

	教 養					教 育				人 文		理	教官	職員	計	合 計	
	人文	教育	理学	工学	農学	中学	小学	特殊	文学	法経							
0 総記	25冊 6 5(2)	13冊 2 3	2 3 18	20冊 3 8	9冊 1 15	0冊 0 7	9冊 6 109	0冊 0 0	20冊 5 3(1)	3冊 23	16冊 4 6	冊 12(8)	冊 117冊 94 298				509冊
1 哲学	32 3(2) 39	117 1 23	6 2 0	62 4(2) 6	14 10	7 12	2 22	0 2	86 23 7	9 4 12	44 4 12	112(4)	4 382 335 206	4			921
2 歴史	59 1 8	86 2 6	3 3 10	47 3 3	25 1 4	4 5 3	38 10 28	0 0 0	103 12 2	13 2 4	32 1 2	120(8)	18(1)	216 225			851
3 社会	222 17 19	207 7 16	7 1 14	77 3 11	36 3 9	15 1 4	39 12 31	0 1 2	82 47(2) 65	244 98 402	69 1 7	602(16)	57	998 1046 580			2624
4 自然	38 3 5	126 3 15	129 5(2) 18(5)	186 4 7(4)	59 0 2	4 0 0	12 0 0	0 2 0	11 3 7	3 17(2) 55(7)	347 17(2) 129	278(15)	9(7)	915 449 329			1493
5 工業	5 0 0	11 0 0	0 2 0	25 0 6	5 0 0	2 0 2	3 0 0	0 0 0	0 1 2	4 1 10	6 1 10	61(9)	5(1)	61 449 32			171
6 産業	2 7	22 0 2	0 1 0	1 0 0(4)	9 0 0	0 0 0	1 3 8	0 0 12	0 8 20	19 0 0	1 0 0	76(3)	4	56 114 81			251
7 芸術	19 0 1	37 2 7	5 4 0	30 0 0	3 0 0	4 0 0	9 6(1) 2	0 0 0	4 5 2(2)	1 0 2	6 0 0	74(25)	4(1)	118 124 20			262
8 語学	5 0 6	5 0 2	4 2 2	11 0 0	2 1 4	1 0 1	0 11 5	0 0 5	43 20(2) 50(4)	2 1(2) 0	7 0 0	68(7)	4(4)	80 178 85			343
9 文学	151 21 19(1)	416 9 29	18 9 14(1)	170 5 2	39 0 3	12 0 14	32 12(1) 20	0 0 1	179 95(4) 173(26)	37 2 10	110 4 14	192(16)	55(6)	1164 604 624			2094
雑誌	6 2 46	5 2 39	0 1 9	3 1 23	3 0 7	0 0 12	2 5 3	0 5 0	1 1 18	3 13 43	0 3 29	117	34	20 193 229			442
計	564 63 158	1045 28 178	174 35 103	632 25 74	201 6 47	52 11 62	147 60 235	0 8 10	529 234 660	339 169 543	638 34 142	2522	234				
合 計	785	1251	312	731	254	125	442	18	1423	1051	814	2522	234			9961	
利用者総人数	7178人	24143	8199人	17062	5576人		1463	人	5191人	2490人	626人	45人				71,973人	
開架図書貸出人数	413	733	181	470	146	36	92	0	343	237	473					3,124	
閉架図書貸出人数	46	24	28	23	3	10	39	4	188	121	26	652	129			1,293	
閉架図書閲覧人数	134	108	72	45	31	42	123	6	421	357	86					1,425	

備考

1. 各分類枠内の上段は開架式図書貸出し冊数、中段は閉架式図書貸出し冊数、下段は閉架式図書閲覧冊数を示す。
2. () は洋書の利用冊数を示す。

■ 図書館委員会報告

昭和45年7月15日

(第5回) 於 本 館

- (1) 昭和45年度の指定図書の実施方針について、予算は70万円+αとし、指定の範囲、種類、冊数、図書価格、科目別予算配分の細目を決定した。申込み期限は、8月17日までとした。
- (2) 図書購入費の配分は、前年度から実施している基本的方針(図書館で必要とする基本的図書を購入すること、および各学部には細配分せず図書館(分館を含む)に留め置き図書委員会において全学的視野の下に購入する)にそって本年度も実施することとした。
- (3) 法経短期大学部の図書問題について討議した。

■ 東部地区図書委員会

昭和45年7月17日

(第6回) 於 本 館

- (1) 教養図書の選定(第1回)を行った。
- (2) 法経短期大学部の図書問題に討議を加えた。

お知らせ

(1) 延長開館について

前期試験の為下記のとおり開館時間を延長します。
 期間 9月7日(月)～9月26日(土)
 時間 平日—19:30まで
 土曜日—16:00まで

(2) 開架式図書(4F)の貸出し手続きが、10月から指定図書と同じ様式になります。

(3) 貸出しは10月1日(木)から行います。

■ 農学部分館だより

7月下旬から始まった書庫の配架模様替え作業は、係員一同蒸風呂の如き書庫で連日頑張り、やっと8月下旬終了した。

従来は1F、2F共に各々図書と雑誌を混配した見難い書庫であったが、新しい配架方法は、1Fに図書(製本雑誌を除き旧分類図書を含む)のみをNDCにより配架し、2Fには雑誌、研究報告、紀要類等を和洋別、アルファベット順に製本雑誌と共に配架してあって、誰が入庫しても容易に検索できるように改められている。